

Asia Leadership Fellow Program

2017 PROGRAM REPORT

Seeking Our Commons in Asia: How Can We Create Visions for the Future?

Seeking Our Commons in Asia: How Can We Create Visions for the Future?

Published by

International House of Japan and Japan Foundation

Copyright © 2017

International House of Japan

5-11-16 Roppongi, Minato-ku,

Tokyo 106-0032, Japan

Telephone: +81-3-3470-3211

Fax: +81-3-3470-3170

Email: alfp_info@i-house.or.jp

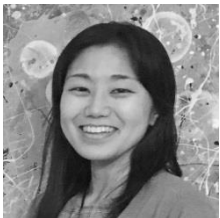
URL: alfpnetwork.net/en/

Contents

ALFP 2017 Fellows (フェロー・プロフィール) -----	4
ALFP 2017 Schedule (スケジュール) -----	7
ALFP 2017 Program Overview (プログラム概要) -----	8

波多野 綾子 (日本)

ニューヨーク大学アメリカ・アジア法研究所 客員研究員



国際法と持続的開発を専門に、ニューヨーク大学アメリカ・アジア法研究所において研究活動に従事している。国際人権法・規範がそれぞれの国や地域の法制度や文化の中でどう受容されていくのかをテーマとしている。直近の研究ではアジアにおけるヘイトスピーチと人種差別の問題に焦点を置き、中でも戦略的な人権訴訟とそれが社会運動に与える影響に注目している。国連女子差別撤廃条約 (CEDAW) によって保障されているマイノリティ女性の権利や、子どもの権利条約 (CRC) のもとで法に抵触する児童の権利を保護するための研究や政策提言などを行う。草の根運動と国際人権システムにおけるグローバルな政策をつなぐ効果的な政策提言を行うことで社会的に脆弱な状況におかれた人々のエンパワーメントに貢献し、社会の主流から取り残されている声が国際社会や地域社会に包摂されることを目指している。

ファザール・ハリク (パキスタン)

ドーン・メディア・グループ リポーター/文化活動家



ジャーナリスト、ライター、文化活動家として、執筆やセミナーを通じ、パキスタンの文化遺産を老朽化やテロから保護する活動を推進している。パキスタンの主要英字紙「ドーン (Dawn)」の記者を務めるかたわら、軍事、文化遺産、詩、紀行など多岐にわたる著書を8冊執筆しており、さらにガンダーラ文明とその歴史について理解を深めるセミナーなども開催している。以前はスワート地区の学校に教員として勤務し、若者に文化財の重要性を伝えていた。その教え子には、2014年にノーベル平和賞を受賞したマララ・ユスフザイさんも含まれている。パキスタンが誇る考古遺産や文化遺産、とりわけ仏教・ヒンズー教・イスラム教関連の遺跡には、異なる民族や宗教の人々を一つにし、アジアの宗教的調和を促進する力があると考えている。ペシャワール大学で国際関係学修士号を取得。アガヒ賞をはじめとするジャーナリズムの賞を複数回受賞しているほか、2014年にはアジア・ジャーナリズム・フェローシップを獲得した。地元メディア「モーニングポスト」の編集にも携わる。

スディルマン・ナシール (インドネシア)

ハサヌディン大学公衆衛生学部 上級講師・研究員



マカッサルにあるハサヌディン大学公衆衛生学部の上級講師兼研究員。インドネシア低所得地域における若年層の HIV 感染リスク行動の社会的要因など、HIV や性感染症 (STIs) 関連の諸問題について研究している。メルボルン大学の公衆衛生・国際保健学部で修士号と博士号を取得し、1990年代半ばよりインドネシアで HIV 予防プログラムに携わっている。国際学術誌で論文を発表するとともに、国内外の一般向けメディアにも頻繁にエッセーを寄稿している。中堅科学者によるインドネシア科学界の発展を目指す Indonesian Young Academy of Sciences (ALMI) の副代表。将来アジアの国々が直面することになる人口問題に関心があり、高齢化社会を迎えている日本の取り組みから学びたいと考えている。

スミタ・パティル (インド)

インディラ・ガンジー国立公開大学 (IGNOU) ジェンダー・開発学部 助教



フェミニスト、研究者、活動家として、インド亜大陸における厳しい身分的差別と闘ってきたダリットの女性の人権と尊厳の問題に取り組んでいる。ダリットの女性知識人や学生たちによるネットワークをインド国内や南アジアで構築し、世界中のマイノリティ女性の活動家グループと連携させたいと考えている。ジャワハルラール・ネルー大学政治学科で修士号と博士号を取得し、スペインのサンティアゴ・デ・コンポステーラ大学の Research Excellence Program USC-India をはじめ、さまざまなフェローシップを獲得している。階級、カースト、ジェンダーに関する論文を学術誌や学術書に多数寄稿。カーストとジェンダー、インド政治、社会・政治理論、ジェンダーと法などの領域に関心を持つ。

ファン・タイン・ドゥック (ベトナム)

銀行学院経営情報システム学部 学部長



国家銀行所管の高等教育機関、銀行学院の経営情報システム学部で、学部長と上級講師を務める。これまでにベトナム、シンガポール、イギリス、アメリカの大学に客員講師として勤務し、主にビジネスプロセス管理、e-ラーニング、e-バンキング、ビッグデータに関する研究や講義を行っている。教育および経営への情報技術応用に関する研究やプロジェクトに従事しており、その一つとして、日本の情報処理推進機構の協力のもとにつくられた、情報処理技術者のためのアジア共通統一試験の普及に貢献している。学生向けの教科書への執筆、学術誌や学会での論文発表、新聞への寄稿も行っている。情報技術を利用した教育機会均等の実現、他国で採用されている教授法、教育カリキュラムの変革が社会の発展にどう結びつくかなどに関心を寄せている。

サロージ・シーサイ (タイ)

ASEAN 事務局環境課 課長



これまでタイ政府や国際機関の職員として、地球温暖化の緩和策と適応策、災害リスク軽減・管理、環境教育などの分野で、持続可能な開発に関わる課題解決に向けて尽力してきた。現在はジャカルタの ASEAN 事務局で環境課長を務め、環境関連の地域協力事業を統括している。母国タイおよびアジア地域の災害対策や人道支援体制の強化の必要性を認識し、日本の防災文化や防災教育に強い関心を持っている。自然災害、生物多様性の喪失、野生動物の密輸など、環境分野の課題が山積する ASEAN 域内において、国際社会や各国の政策決定者たちと市民社会を結びつけることで、問題解決の一端を担いたいと考える。また、自身の仕事やプロジェクトにおいてジェンダーの平等を積極的に推進している。

王馨 ワン・シン (中国)

南京日報マルチメディアセンター 副センター長



新聞社にてこれまで13年間、経済と都市建設を専門に、マルチメディアに関する知識と報道局や広告局での管理経験を積んできた。ジャーナリストとしての影響力を活かし、失業者や障がい児などの社会的弱者をはじめ、一人でも多くの人の役に立ちたいと考えている。同時に、日本を含めた近隣諸国と母国をつなぐ懸け橋になりたいと願っており、“ペン”は昨今アジアの人々の心に生じている距離を縮める力を持ち、ポジティブで客観的な情報は人々の相互理解を促進する、と訴える。また、都市レベルの社会の発展におけるメディアの役割と責任に関心を持っている。キングス・カレッジ・ロンドンにチーヴニング奨学生として国費留学し、修士号を取得。

※所属・肩書はプログラム参加当時のものです。

ALFP 2017 Schedule

9月11日	オリエンテーション／歓迎レセプション
9月12日	イントロ・セッション カントリーレポート1：サロージ・シーサイ、ファザール・ハリク
9月13日	カントリーレポート2：スディルマン・ナシール、ワン・シン、波多野綾子 カントリーレポート3：ファン・タイン・ドゥック、スミタ・パティール
9月15日	ディスカッション・ペーパー発表会議（南アジア、東南アジア）
9月16日	ディスカッション・ペーパー発表会議（北東アジア）
9月19日	高原明生（東京大学教授）北東アジア・コアセミナー「経済統合か国際競争か：東アジアにおける相反する潮流」
9月20日	マリオ・ロペズ（京都大学准教授）東南アジア・コアセミナー
9月22日	田辺明生（東京大学教授）南アジア・コアセミナー「グローバル化するインドとアジアにおける構造変容：持続可能、包括的、平和的な開発」 フィールド・トリップに向けての準備セッション
9月24～28日	三重・大阪フィールド・トリップ
10月2日	神武直彦（慶應義塾大学准教授）セミナー「衛星技術とサービス」
10月3日	NHK 訪問
10月4日	会田弘継（青山学院大学教授）セミナー「グローバリズムとナショナリズムとポピュリズム：トランプ主義の構造分析」
10月5日	社会福祉法人藤雪会訪問および又木京子理事長からのお話
10月7～14日	個人活動期間
10月15日	アンベス・R・オカンポ（アテネオ・デ・マニラ大学准教授／2014年度ALFPフェロー） セミナー「記憶と忘却：文化遺産と第二次世界大戦」 および新渡戸国際塾塾生、マン スフィールドフェロー、カケハシ・プロジェクト参加者とのディスカッション
10月16日	黒川清（医学博士／政策研究大学院大学名誉教授）「私たちの共通の課題：グローバルヘルス」
10月17日	大沢真知子（日本女子大学教授）「何が日本の女性の活躍を妨げているのか」
10月18日	朝日新聞社訪問
10月22～23日	リトリート合宿 in 箱根
11月1日	公開フォーラム
11月2日	評価セッション

2017 Program Overview

ディスカッション・ペーパー発表会議

プログラムの始めには、フェローがそれぞれの関心テーマや出身国の状況について発表し、日本の有識者と議論を交わす3つのセッションが都内で開催されました。各会ともフェローの出身地域別に南、東南、北東アジアのいずれかの地域に焦点をあて、2017年度のALFPのテーマである「Seeking Our Commons in Asia: How Can We Create Visions for the Future?」に基づいて議論を交わしました。



コメンテーターおよびモデレーター：

- 阿古智子（東京大学大学院総合文化研究科 准教授）
- 伊藤毅（上智大学国際教養学部 准教授）
- 小川玲子（千葉大学法政経学部 准教授）
- 水野孝昭（神田外語大学 教授）

コアセミナー

プログラム2週目には、北東、東南、南アジアのいずれかの地域に焦点をあてた、3つのコアセミナーが行われ、それぞれの地域が抱える課題を中心に、今後のアジアについて大局的見地から議論を重ねました。

－ 9月19日 高原明生（東京大学教授）

北東アジア・コアセミナー「経済統合か国際競争か：東アジアにおける相反する潮流」



－ 9月20日 マリオ・ロペズ（京都大学准教授）

東南アジア・コアセミナー with ドキュメンタリー映画



－ 9月22日 田辺明生（東京大学教授）

南アジア・コアセミナー「グローバル化するインドとアジアにおける構造変容：持続可能、包括的、平和的な開発」



セミナー

セミナーでは、学界やNPO・NGOなどからお招きした知識人や専門家から以下のテーマでお話いただき、その後、フェローとの間で活発な議論が交わされました。

- 10月2日 神武直彦（慶應義塾大学准教授）
「衛星技術とサービス」



- 10月4日 会田弘継（青山学院大学教授）
「グローバリズムとナショナリズムとポピュリズム：トランプ主義の構造分析」



- 10月15日 アンベス・R・オカンボ（アテネオ・デ・マニラ大学准教授／2014年度 ALFP フェロー）
「記憶と忘却：文化遺産と第二次世界大戦」 および新渡戸国際塾塾生、マンسفールドフェロー、カゲハシ・プロジェクト参加者とのディスカッション



- 10月16日 黒川清（医学博士／政策研究大学院大学名誉教授）

「私たちの共通の課題：グローバルヘルス」



- 10月17日 大沢真知子（日本女子大学教授）

「何が日本の女性の活躍を妨げているのか」



その他の訪問およびセッション

- 10月3日 NHK 訪問

シニア・プロデューサーの方にお話を伺った後、社内とスタジオの見学をさせていただきました。



- 10月5日 社会福祉法人藤雪会訪問

施設を見学させていただき、又木京子理事長からお話を伺いました。



- 10月18日 朝日新聞社訪問

アジア関連の報道を担当されている記者の方々にお話を伺いました。



三重・大阪フィールドトリップ (9月24~28日)

フェローの共通の関心事などに基づいて企画したフィールド・トリップに出かけました。

地域特性を活かした地方創生と防災

- 9月24日 セミナー「地方と都市部、そして地域間の格差是正、および防災」
鈴木英敬 (三重県知事)



環境の持続可能性と文化の保全について

- 9月25日 伊勢神宮の歴史と建築、神道について宮司による説明と案内



- 9月25日 海女文化の保全・継承、環境、資源管理について、尾崎よし氏（海女）および櫻井拓馬氏（三重県教育委員会事務局）との対話



- 9月26日 環境と生態系を考慮した森林経営、および文化的景観と森林維持の関係に関するセミナー
速水亨（速水林業社長）



日本の貧困とマイノリティー問題について

- 9月27日 大阪・あいりん地区における貧困と高齢化問題に関するブリーフィングおよび同地区視察
ありむら潜（釜ヶ崎のまち再生フォーラム事務局長）



- 9月27日 セミナー「在日韓国・朝鮮人の多様性と日本および朝鮮半島とのつながり」
李洙任（龍谷大学教授／2008年度ALFPフェロー）



- 9月28日 コリアタウン訪問と在日韓国・朝鮮人に関するセミナー
金光敏（コリアNGOセンター事務局長）



リトリート合宿 in 箱根（10月22～23日）

10月22日から23日にかけて、箱根にて合宿会議が行われ、11月1日の公開フォーラムに向けて今年度のALFPの総合テーマ「Seeking Our Commons in Asia: How Can We Create Visions for the Future?」について議論を重ねました。箱根での合宿会議後、本間寄木美術館を訪れ、コースター作りを楽しみました。



公開フォーラム（11月1日）

約2カ月間にわたる日本での共同作業の集大成として、11月1日に国際文化会館にて公開フォーラムを開催しました。フォーラムではフェローたちが対話の成果を交えながら、それぞれの専門や国の現状について発表しました。第1部・2部ともに、小川玲子氏（千葉大学准教授）に司会をしていただき、会場からもたくさんの貴重なコメントやご質問をいただきました。



各フェローの発表演題は下記の通りです：

- 波多野綾子（日本）
「グローバル社会におけるヘイトスピーチと人権」
- スミタ・パティル（インド）
「インドにおけるカーストとジェンダーをめぐる議論」
- ファン・タイン・ドゥック（ベトナム）
「高等教育の変化：未来の展望をどう共創するか」
- スディルマン・ナシール（インドネシア）
「アジアにおける健康と社会変化—インドネシアの視点から」

- ファザール・ハリク (パキスタン)
「人々をつなぐ文化遺産」
- ワン・シン (中国)
「私が出会った日本人：ステレオタイプを超えて」
- サロージ・シーサイ (タイ)
「東南アジアの災害管理から学んだこと」